

教育研究実践報告誌の創刊にあたって

初等教育課程長・出口 憲

この度、初等教育課程の研究企画部会から「教育研究実践報告誌」（以下、「報告誌」とします）を創刊することとなりました。

本学の教員が自分の研究成果等を発表する場として、学部ごとに「研究紀要」があるわけですが、原則として年1回の発行であり、筆頭著者の場合、投稿数も1本に限定されています。そこで、先生方の発表の機会を増やすことを目的に、年3回程度「報告誌」を出版することとし、初等教育課程の目的でもある教員養成を主とした教育、研究、あるいは実践等を自由に発表、報告できる場を提供することといたしました。

大学教員の重要な仕事として学生に対する教育があることはもちろんですが、同時に、研究を深め、その成果を発表・公表すること、それらの研究が学生の教育に反映されることも重要です。特に、初等教育課程は教員養成を目的としていますから、初等に所属する教員は教育者として学生の模範となることが必要です。日頃の授業の背景に研究（本格的な研究だけでなく、教材研究、教授法の研究などもあることでしょう）があり、それらの研究が基となって授業が展開されていることを示せば、学校の教員として「研究し続ける姿勢を持つ」ことが重要なのだと学生も気づくことでしょう。

研究で十分な成果が得られるまで、あるいはある程度まとまった形にするまではどうしても時間がかかります。そのような場合でも、この報告誌であれば研究途中の内容でも自由に発表できます。記録に残すことで、今後の研究を進める指針とでき、投稿を見た方から助言等を受けることもできると思います。

また、「常葉学園」から「常葉大学」と学校法人の名称が変更となり、学園内の中学校・高等学校も大学附属となりました。今後、高大連携、中高大連携等を深めていくことも重要です。今後、附属学校での教育実践等も積極的に行っていただき、この報告誌で教育実践内容を発表してください。高大連携が最初からうまく行くとはいえませんが、それらのうまく行かないことも報告誌に記録として残すことで、高大連携の改善を図る参考資料となることでしょう。

報告誌の創刊により、初等教育課程の教育、研究、実践がますます盛んとなるよう、先生方からの積極的な投稿をお願いいたします。